

## \* 参考資料 2

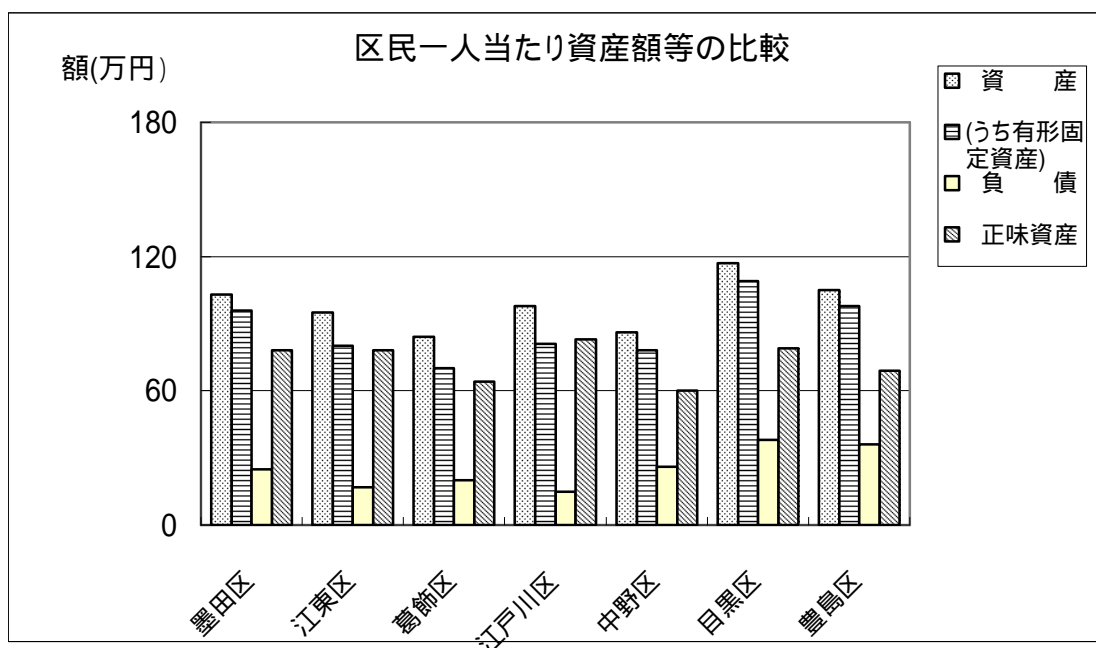
平成 16 年度末の普通会計バランスシート及び行政コスト計算書に基づき、総務省方式で作成した他 6 区と比較してみます。

### 【バランスシートの他区比較】

#### 1 区民一人当たりバランスシートの比較

区民一人当たりで、どの程度の社会資本等の蓄積をもっているかがわかります。区民一人当たりの資産総額が他区に比較して大きければ、公共施設等が充実していると言えます。

単純比較では、本区の資産額(103 万円)は他区の平均水準(98 万円)を上回り、負債額も平均(25 万円)より高くなっています。また、正味資産も平均(72 万円)以上となっています。

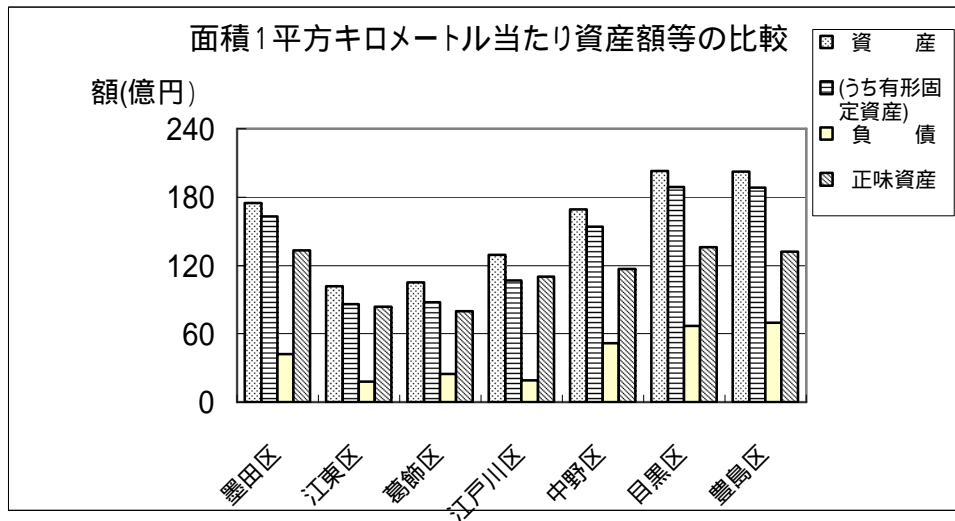


#### 2 面積(1km<sup>2</sup>)当たりバランスシートの比較

面積1km<sup>2</sup>当たりで、どの程度の社会資本等の蓄積をもっているかがわかります。面積当たりの資産額が他区に比較して大きければ、投資の密度が高い区と言えます。

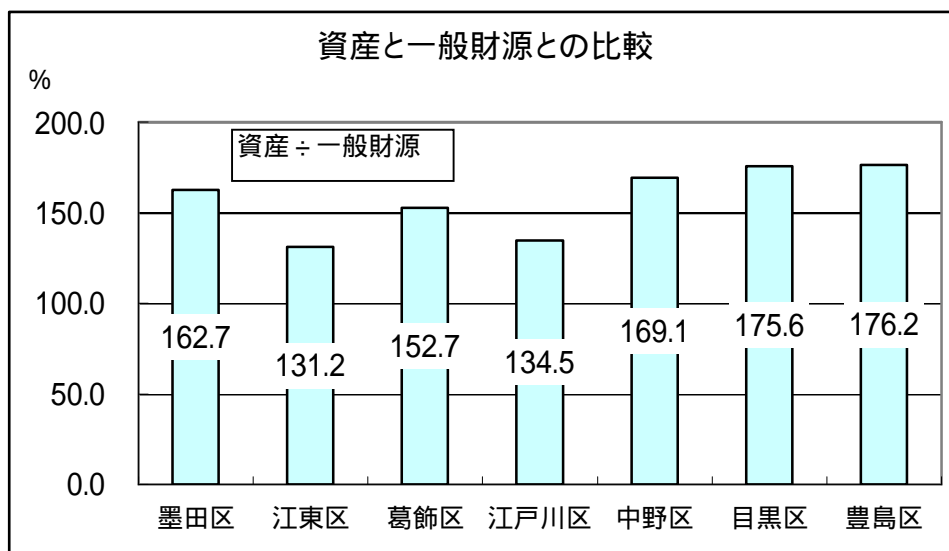
本区の資産額(175 億円)は、他区の平均(152 億円)より大きくなっています。

一方、負債額(42 億円)は他区の平均(42 億円)と同じで、正味資産額(133 億円)は他区の平均(110 億円)より多くなっています。



### 3 資産と一般財源との比較

資産額と一般財源との比率から、財政規模に比べ、どの程度の資産形成を行ってきたかがわかります。この比率が、他区に比較して大きければ、財政規模に比べ大きな資産をもっていることとなりますので、一般財源を積極的に資産形成に振り向けてきたと言えます。

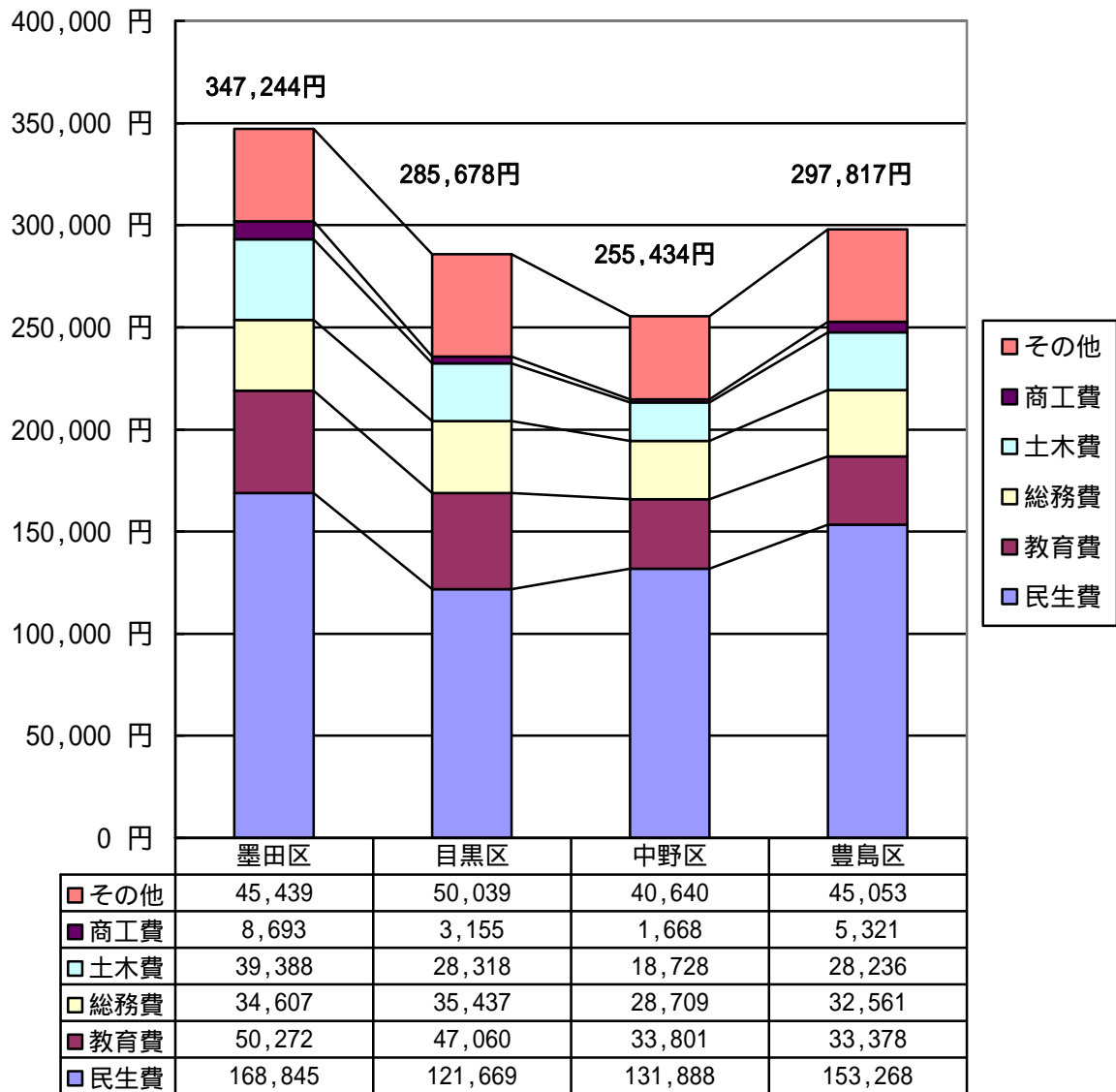


本区資産額の一般財源比率は、比較を行った区の中なかでは 4 番目で他区平均 (157%) より約 6% 程度高い状況です。

本区の資産額は区民一人当たり・面積 (1km<sup>2</sup>) 当たりともに、他区平均を上回っています。これらのことから、地域に十分な投資が行われていると言えますが、今後は投資に見合った効果 (例: 区民施設の利用率向上) を上げていくことが重要です。

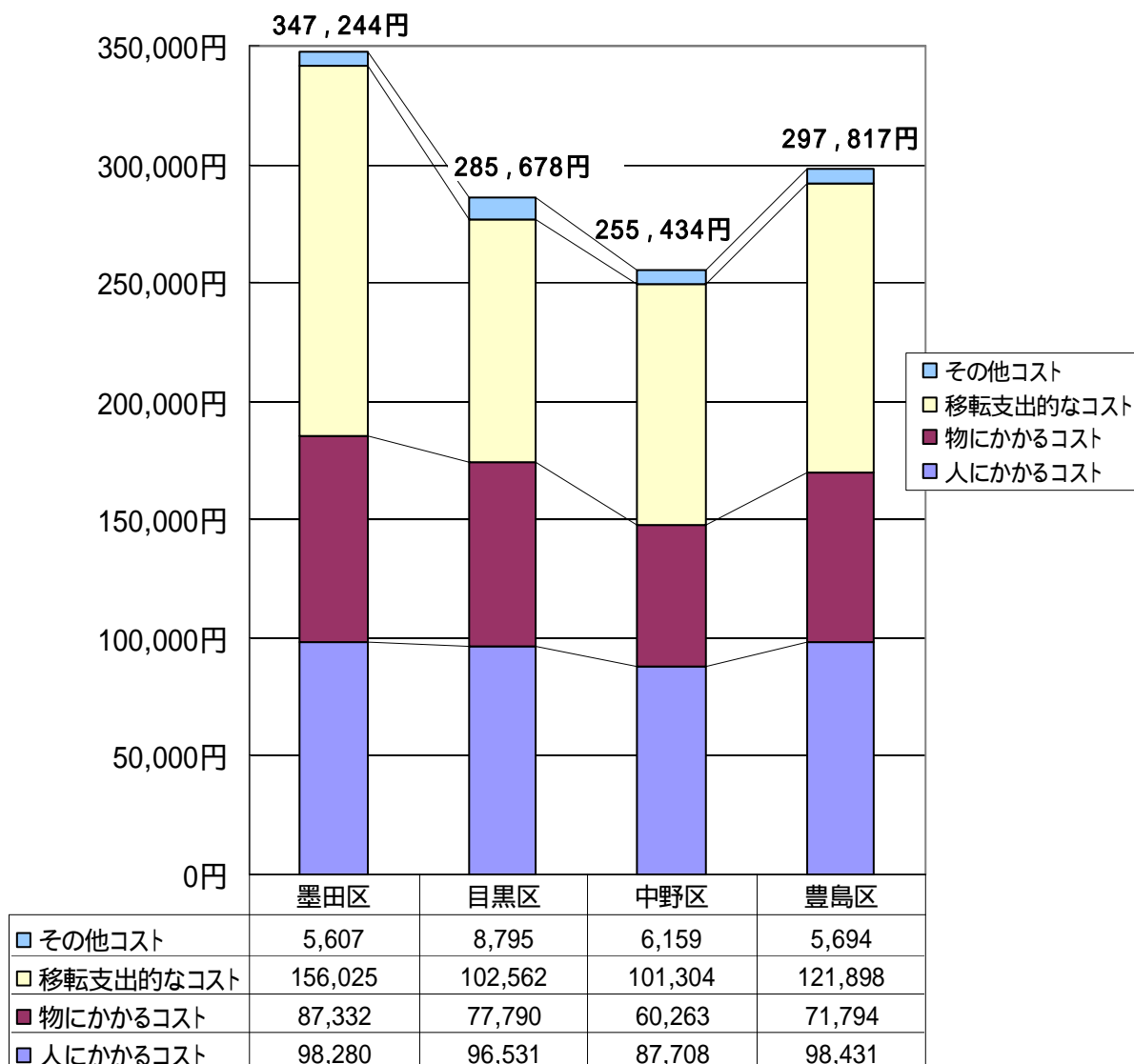
## 【行政コスト計算書の他区比較】

### 1 区民一人当たりの目的別行政コスト額の比較



本区の行政コストは、生活保護費や児童手当などの民生費や、トリフォニーホールの管理運営費や減価償却費を含む教育費が他区より大きくなっています。また特徴として、産業振興を区政の重点課題に位置付けていることから、商工費が多くなっています。

## 2 区民一人あたりの性質別行政コスト額の比較



本区の性質別行政コスト額は、人にかかるコスト以外の各分野において他区より大きくなっています。なかでも移転支出的なコストが比較的高くなっていますが、これは他区に比べ、扶助費が多いことによるものです。

今後も、限られた財源の中で、新しい区民ニーズに応じていくために、より一層行財政改革に取り組んでいく必要があると言えます。